

教育広報

# 相 双

第126号

令和4年10月3日発行

【編集・発行】

福島県教育庁  
相双教育事務所

南相馬市原町区  
錦町1-30

☎0244-26-1313(代)

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/70610a/>



「授業の見え方」  
相双教育事務所長  
横山 修

「そう、一つは自分の理想の授業像。そしてもう一つは、自分が実際にやっている現実の授業だ。当然のことだが、理想の授業像の方がレベルが高い。現実の授業像はそれよりかなり低いと思った方がいい。他人の授業を見る時は、どうしても理想の授業像に照らし見てしまう。だから、気をつけなくてはいけない。」

「授業を見る時に気をつけなければいけないことがある。それは、自分の中に授業像が二つあるということだ。」  
「二つですか。こういう授業をやりたいなという授業像はありますか……。」

「横山さんは、今日の授業を今一つと言った。それは自分の理想の授業像から見れば、今一つに見えたかもしれない。」

しかし、自分の実際の授業と比べたらどうだろうか。似たレベルか、もしかすると、上の可能性すらある。しかも、研究授業をする人は、それなりの思いを持って、しっかりと準備して臨んでいる。学ぶべきことは必ずあると思うよ。」

「ここまで説明されてようやく自分の不遜な態度に気付いた私は、顔が真っ赤になった。先輩はさらに、本を読んだり研究授業を見たりすることで、理想像が高まっていくことで、自ら研究授業をすることで、理想像と現実を近付けることができることなどについても話してくれた。授業の奥深さを知り、努力を怠るなどということをやったのだと思う。」

山頭火

通常開催となった今年の相馬野馬追祭。私にとって初陣となりました。

出陣前日、騎乗する愛馬との初対面の際、雨上がりの東の空にくっきりと大きな虹が架かっていました。

「一学期中に訪問させていただいた多くの学校に『虹』が架かっていました。ある学校では何千羽もの折鶴で形作り、廊下の壁に展示していました。」

これは震災翌年の本広報への投稿の一部です。

「虹の彼方に」の歌詞、  
Somewhere over the rainbow,  
skies are blue, and the



◇教育随想◇  
「初陣」  
浪江町教育委員会  
教育長 笠井 淳一

Dreams that you dare to dream really come true!  
(虹の向こうの空は青く、信じた夢は現実のものとなる)のように、十二年目の今、当時思い描いた虹の彼方の一つのステージにはたどり着きつつあるように感じています。

本町小・中学校においては一人一人の学びに応じたAI教材等ICT活用やきめ細かな指導とともに、少人数を補うオンライン合同授業、また、大堀相馬焼等の伝統文化の継承や復興に取り組み地域の人々との交流を通じた学び、哲学対話や演劇ワークショップ、水素やロボット産業等、新たなフィールドも取り入れた教育活動の展開とともに、震災遺構請戸小や県の震災伝承館等を通じた震災の記憶・教訓の継承にも努めております。

復興への課題は様々ですが、これまでの多くの方々のご支援に改めて感謝申し上げますとともに、震災直後抱いた教育復興への初心に立ち返り、双葉郡教育復興ビジョン推進計画第三期初年度となる本年町や当地域の新たなステージ、新たな「虹の彼方」を想い描き、それを実現させていきたい、馬上からそんな思いを強くした「初陣」でした。

新しい学びの  
かたちを  
相双から

「地域と共に」

檜葉町立檜葉小学校

校長 横山 雄彦

夏休みのある日、「校長先生、これ食べてください。」と、エプロン姿のかわいらしい子どもたちが、三色に色分けされたおいしそうなゼリーを校長室に届けてくれました。プクツキング教室で、ゼリー作りが得意な保護者を講師として招いて作ったそうです。本年度より本校は檜葉小学校開校に合わせて、学校運営協議会が設置され、コミュニティ・スクールとなりました。校舎内には「地域学校協働センター」が設けられ、ならはっ子子ども教室やならはっ子寺子屋、週末には、外に出て自然とふれ合うネイチャースクールが実施されています。ならはっ子子ども教室では、

「サッカー教室」「空手教室」「生け花教室」「プクツキング教室」「和布細工教室」など、多種多様な活動に本校の子どもたちは、放課後や週末、夏休み中にも取り組んでいます。学校の教育活動においても、木戸川漁業協同組合の協力を得て、学校でさけの稚魚を育てたり、地域の田んぼに出かけ、生き物採集や田植えをしたり地域の方と藍染めや味噌づくりを行ったりと、地域資源を積極的に活用し、地域の「ひと・もの・こと」から実に多くのことを学んでいます。教室を離れ、多くの方と出会い、様々な体験をしている子どもたちは、とても生き生きとしていて瞳が輝いています。子どもたちに教えてくださっている地域の方も実に楽しそうです。

檜葉南小学校と檜葉北小学校が統合し、本年四月より檜葉小学校としてスタートを切った本校は、これまで以上に地域に見守られ、支えられ、地域と共にある学校づくりが確実に進められていると実感しています。

檜葉町役場には「笑顔とチャレンジがあふれるまち」と掲げられています。一二九名のならはっ子が、笑顔で、様々な学びにチャレンジしている、

子どもたちと共に過ごす地域の方も笑顔になっている、そのような学校を檜葉町のみなさんと「チームならは」でつくっていきたいと思います。



【地域の方と一緒に「味噌づくり体験」】

「私のふるさと  
富岡小・中学校」

富岡町立富岡中学校

校長 武内 雅之

今年度より小中併設型連携校として富岡小学校と富岡中学校が新たな一歩を踏み出しました。

児童生徒・教職員共に、「自分たちの手で歴史の一ページ

を」との思いで日々の学習活動に取り組んでいます。

中学生の姿に「尊敬」「憧れ」「安心感」を持つ小学生、その期待に応えるべく「自主・自律」「責任感」「向上心」を意識する中学生、それぞれの相乗効果が期待されます。また、きめ細かな児童生徒理解のもと、義務教育九年間の系統性を大切に、授業の質的向上、専門性を生かした連携の強化が期待されます。

これらの強みを最大限に生かし、「多世代教育の充実」、「深い共感から始まる教育」、「少人数のよさを生かした教育活動」、「富岡ならではの特色ある教育活動」の四つの施策を掲げ、夢(目標)を持ち、それに向かって、生き生きと活動し、一步一步前進できる児童生徒を育てていきます。

そして、様々な学びや体験を通して、自分や仲間・地域を大切にし、ふるさとを愛する人へ成長していくことを大きな目標として掲げ、日々の教育活動に取り組んでいきます。

震災から十一年、伝統ある富岡第一・第二小学校、富岡第一・第二中学校の伝統と同三春校がつないできた絆をしっかりと引き継ぎ、新設小中学校の統括校長として、子どもたちや保護者、そして町民



【子どもたちと関係者による「校歌発表」】

の夢と希望、大きな期待を背負う重責を痛感しております。

富岡小・中学校が「コミュニティ」の拠点となる学校として、「地域を愛し、地域に貢献できる児童生徒」を育てていくためにも、これまで実践してきた「富岡ならではの教育」を継承し、さらに発展させ、「地域と共にある学校」をめざして邁進してまいります。そして「ここが私のふるさと富岡町、富岡小学校・富岡中学校です。」そんな言葉にあふれる学校に育てていきたいと思えます。

今後とも指導よろしくお願

# 「新設校における 特色ある取組に ついて」

## 福島県立相馬総合高等学校 教頭 小原 英男

相馬東高校と新地高校の統合による相馬総合高校として新たなスタートを切り、約半年が過ぎました。

本校舎と新地校舎を合わせて一七クラス、五五〇名を超える両校舎の生徒が一堂に会する機会はなかなかありませんが、六月には、相馬市民会館において、両校舎の生徒全員での初めての学校行事として芸術鑑賞を実施しました。

相馬総合高校は「文理教養」「スポーツ」「芸術」「生活福祉」「産業ビジネス」の五つの系列からなる総合学科の高校で、キャリア指導推進校として、大学・短大、専門学校、就職など、生徒の様々な進路希望に対応できる学校です。

また、学校を支える三つの柱として、「防災・復興教育」「地域と連携した学び」「生徒一人一人に寄り添った指導体制」を掲げています。東日本

大震災では、相馬東高校、新地高校とも津波の犠牲となった生徒がおり、統合校でも、犠牲となった多くの方々への追悼の意思を継承しています。

統合校最初の入学生である一年生は、阪神淡路大震災でご自身も被災された前川直哉福島大学准教授から「君が学ぶと世界が変わる」と題する講演を聞き、「震災・復興を聞き、双葉町の東日本大震災・原子力災害伝承館や浪江町の請戸小学校に実際に足を運ぶなど、震災や復興について学んでいます。

また、本校舎は令和元年の台風一九号で床上浸水となり、施設の復旧だけでなく、通常の授業が実施できない状況となるなど大きな被害を受けました。本年三月には浸水被害防止のために校舎全体を取り囲むように防水板を設置できる環境が整備され、六月の避難訓練の際に、当時の状況をあらためて確認した上で、本校舎の生徒全員で防水板の設置訓練を行いました。

地元の方々などとも連携しながら様々な学びの機会を設け、地域の現状や課題を知り、課題解決のために自分たちができることは何かを考え、学びを深めていこうとする生徒たちの育成に向けて、試行錯

誤しながら、「答えのない問い」と向き合う取組が始まっています。



【震災や復興について学ぶ生徒たち】

「北から南から」  
—新規採用職員として  
考えること—

南相馬市立原町第三小学校  
教諭 小西 淳之介

新採用教員として、この春、南相馬市立原町第三小学校に着任し、約半年が過ぎようとしています。

今年の四月に教師としての第一歩目を歩み始め、学年の先

生方や管理職の先生に助けていただきながら、日々の授業や生徒指導に励んでいます。

私は第二学年の担任をしています。これまでを振り返ると、学級経営や生徒指導に悩み、日々の授業で落ち込むことが何度もありました。しかし色々な先生方の経験や助言から、子どもたちと積極的に遊び、会話をして関わることで、子どもたちと向き合う時間を多くとることが大切であると学びました。

日々の授業では、子どもたちの願いや問いを大切にするようにしています。それらを大切にすることで、子どもたちも授業に主体的に取り組みることができるようになると考えています。

初任者としての一年は、学校の先生方や研修から学ぶことが多くあります。多くのご指導から学んだことを大切にしながら、教師を目指し、四月に着任したときの初心を忘れず、子どもたちと共に成長していきたいです。

葛尾村立葛尾中学校

教諭 三浦 智美

この春、新採用教諭として葛尾村立葛尾中学校に着任し、約半年が過ぎました。新天地

で日々先生方に助けていただきながら、授業、部活動、生徒指導に励んでいます。

私は今、第一学年の担任をしています。生徒は一名です。これまでの講師経験で担任をしたことはありませんが、生徒一名は初めての経験です。授業の中での話し合い活動が難しく「深い学び」の実現について頭を悩ませることも多いですが、生徒は毎日授業に部活動にと意欲的に取り組む姿が見られます。

また、少人数だからこそ、生徒と向き合う時間が多く、生徒に寄り添った声掛けや指導ができること、生徒の力や成長にすぐに気付くことができることに教師としての喜びを感じています。

生徒の将来に大きな影響を与えるのが教師だと考えています。生徒一人一人に寄り添い、生徒の将来の姿をしっかりと見据え指導にあたっていくとともに、私自身もこの一年間の研修で得られた学び、日々の学びを大切にしながら生徒と共に成長していきたいと思っています。



福島県立相馬農業高等学校

教諭 佐々木 実優

生徒との距離の取り方、教員としての立ち居振る舞いなど、ぎこちなかった四月から約半年が過ぎました。この半年間は、毎日起こる様々な出来事に戸惑い、驚きながらも、多くのことを学ぶことができ、充実した毎日でした。

私が家庭科の教員として大切に行っていることは「学校だけではなく、それぞれの生活に直結した学び」にすることです。家庭科の学習を通して、多方面から生徒の自立を手助けしたいと考えています。そのためにも、研究授業等を通して、様々な意見を頂きながら授業力の向上を目指しています。

また、部活動では弓道部顧問として、指導を行っています。高校・大学では選手として関わってきた競技も、教える立場となると全く異なる難しさがあり、試行錯誤の日です。時間をかけて信頼関係を築き、生徒の成長を間近で見られた時には、大きなやりがいを感じられました。生徒への指導で悩み、自信を無くすこともあります。多くの先生方や生徒達に支え

られ、毎日を通じています。教員らしさの前に自分らしさを忘れずに、日々前進していきたいと思っております。

新地町立駒ヶ嶺小学校

養護教諭 関 安未華

新規採用養護教諭として新地町立駒ヶ嶺小学校に赴任し、約半年が過ぎようとしています。この春に、教師として社会人としての第一歩を踏み出し、忙しくも充実した毎日をおこなっています。

私が保健室経営をする中で努力していることは、子どもたちにとつて開かれた保健室にすることです。これは、子どもが心や体に不調を感じたときの「居場所」になりたいという思いからです。そのため、一人一人に真剣に向き合うことを大切にしています。

この半年間、子どもたちの名前を覚えることから始まり、性格や個性を理解し、言葉や表情での訴えを受け止めながら、その子に合った対応・声かけができるよう心がけてきました。朝、暗い顔で保健室に来た子どもが「先生、良くなりましたよ!」「もう大丈夫!」とそのあとの学校生活を笑顔で過ごしている姿を見ると、

少しずつ開かれた保健室づくりに近づけているのかなどうれしく思います。

これからも初心を忘れず、日々助けてくださる周りの先生方への感謝の気持ちをもち、子どもたちと一緒に成長していきたいと思えます。

「主体的・対話的で深い学び(教師編)」  
—学級・授業づくりセミナー開催—

八月四日木曜日、南相馬市立原町第一小学校において、「学級・授業づくりセミナー」が開催されました。開設講座は、学級経営や国語、社会、算数・数学、理科、外国語活動・外国語科、体育・保健体育、図画工作、特別支援教育の計九講座でした。

開催直前まで、新型コロナウイルス感染拡大の状況もあり、開催が危ぶまれましたが、セミナー当日、相双域内より、事前申込があつた六十九名も先生方が参加してくださいました。

特に、今年度新たに開設した学級経営の講座では、講師に南相馬市教育委員会村上潤一参事兼指導主事をお招きし

て「学級経営とは」「どんな学級にしたいの?」「そんな学級にするために」などのご講義をいただきました。また、演習「無人島SOS」を実施しました。参加した先生方は、講師の先生のエピソードを交えた教育実践のお話に耳を傾け、メモをとって講義や演習を受けており、そんな熱心な姿が大変印象的でした。



【熱心に研修に参加する先生方】

本セミナーを実施するにあたり、昨年度から引き続き、相双域内の理数教育優秀教員活用事業における数学・理科コアティーチャーや外国語教育推進リーダー、特別支援教育の実践に詳しい先生にもご参加いただき、ご指導をいただきました。また、会場校である原町第一小学校鈴木和一郎校長先生をはじめ、先生方には会場準備などで大変お

世話になりました。改めまして、心より御礼と感謝を申し上げます。

令和4年度も折り返しを迎えましたが、本セミナーで学んだことが子どもたちのよりよい成長につながることを期待しております。

◇編集後記◇

学校訪問で参観した生活科の一年生のつづやきです。

「〇〇くん(伝えるに)は(観察日記の絵を見て)こっちの絵の方がいいかなあ。」栽培中のアサガオの成長を幼稚園の友だちに伝えようと試行錯誤していました。

単元の導入でアサガオの絵本の読み聞かせを行い、黒い小さな種との出会いを工夫していた授業者は、優しく微笑みながらその理由を尋ね、何気ない子どもの気付きを称賛していました。幼小が連携した教育環境や教師の働きかけ(見取り、価値付けなど)により、子どもに元々内在する主体性が大きく引き出されたすてきな場面でした。

今後も域内の子どもたち、先生方の価値ある教育活動を積極的に紹介していければと思います。お忙しい中、寄稿していただきました皆様には心より感謝申し上げます。